

日頃の心構えが大切

災害から身を守るために

台風情報を正確に知ろう

日本は四季の変化に富んだ国です。それだけに、梅雨前線の停滞や台風の上陸などがあり、しばしば私たちの生命や財産を奪い、大きなつめ跡を残します。とくにこれからは、集中豪雨や台風による被害が多い季節です。こうした被害を少なくするために、正しい知識を身に付け、落ち着いて行動できるようにしたいものです。

熱帯地方で発生した低気圧を「熱帯低気圧」といいます。このうち、中心付近の最大風速が、毎秒17・2メートル以上のものを日本では「台風」、それ未満のものを「弱い熱帯低気圧」と呼んでいます。

さて台風は、日本付近で毎年どれくらい発生しているのでしょうか。過去30年間を見ても、平均では毎年約27個発生し、そのうち3個が日本に上陸しています。上陸しなくても日本に接近した台風も含めると、毎年5、6個が私たちに影響を与え、ときには災害をもたらしています。そこで知っておきたいのが、

テレビで放送される台風予報図の見方です(図参照)。この中にてくる「暴風域」、「予報円」、「暴風警戒域」の意味を覚えておきましょう。

暴風域とは、平均風速が毎秒25メートル以上吹いていると考えられる範囲です。この外側には、平均風速が毎秒25メートル未満の強風域があります。予報円とは、台風中心が到達すると予想される範囲です。この円内に、台風中心が入る確立は60%です。暴風警戒域とは、予想された時刻にこの円内のどこかが、暴風域になるおそれのある範囲です。

